

精密金型メーカーから“プラスチック精密成形総合システム会社”へ

不二精機株式会社
決算説明資料
証券コード6400



2011年3月9日HP公開

www.fujiseiki.com

2010年12月期の決算の説明と今後の展望などをご説明いたします。

会社概要

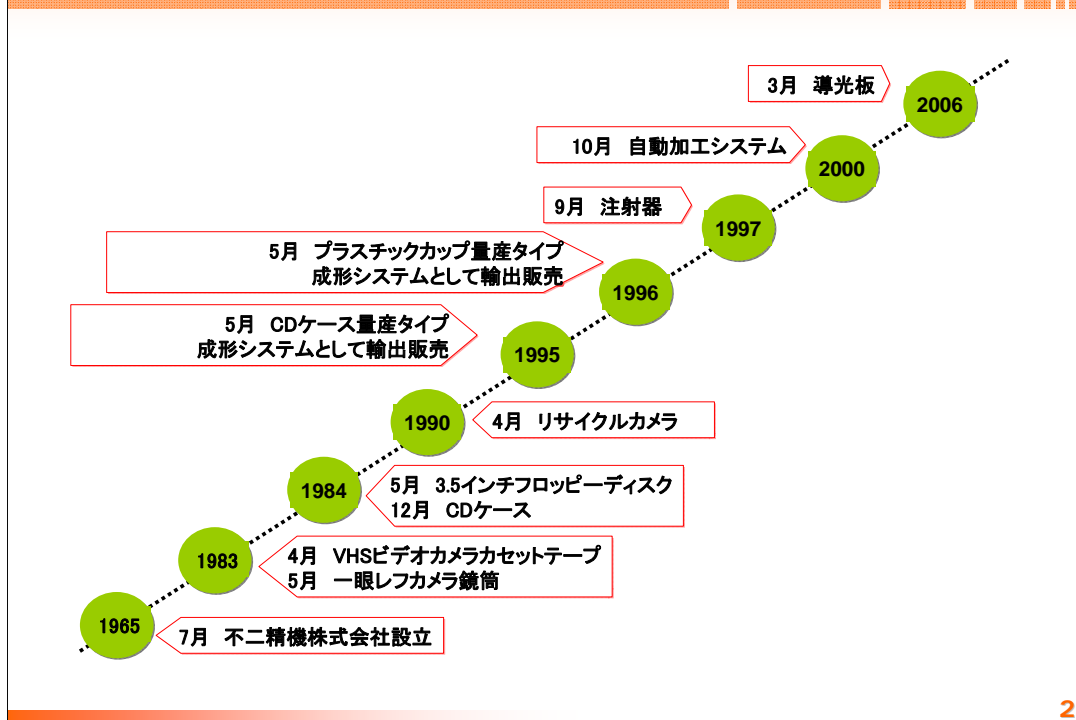
PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI

1

弊社の概要を紹介いたします。

沿革(主力製品の推移)

PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI



2

弊社は、1955年の創業以来、「精密金型」ひとすじに物づくりを行ってまいりました。

1984年頃からは、成形品1個当たりのコストが重視される大量生産品向けの金型が主力製品となりました。

1995年頃より、金型単体での販売だけでなく、顧客が求める成形品を生産するために必要な生産設備(金型、成形機、取出し機、自動組立機等)も併せての販売(成形システム)が主力製品となりました。

さらに、現在では、金型より生産される成形品そのものの精密さを求められる、デジカメ等のズーム部分である鏡筒向け及び、ノートPC等用導光板向けの精密金型ならびに成形品、大量生産品である注射器等医療機器向けの精密金型及び成形システムが主力製品となっております。

海外生産拠点

PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI

上海



設立：01/09
稼働開始：02/03

■ デジカメ用光学機器用などの精密成形品の製造を担当

蘇州



設立：02/03
稼働開始：03/10

■ 導光板などの精密成形品製造を担当
■ 金型設計 (CAD・CAM) を担当

※蘇州不二設計技術有限公司は2010/12に蘇州不二精機と合併いたしました。

常州



設立：02/11
稼働開始：03/10

■ 主としてグループ内各社向けの精密金型製造を担当

THAI



設立：01/01
稼働開始：02/03

■ プリンター部品、自動車用他、精密成形品および精密金型製造を担当

3

2001年より海外展開を進め、中国・常州にコアビジネスである精密金型製造会社のほか、タイ及び中国に3拠点の成形品製造会社を稼働させております。

また、蘇州には弊社グループの金型設計等 (CAD・CAM) の生産性向上を図るために、設計センターを併設しております。

10/12月期決算の概要

PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI

収益構造の転換で安定した経営体質へ

4

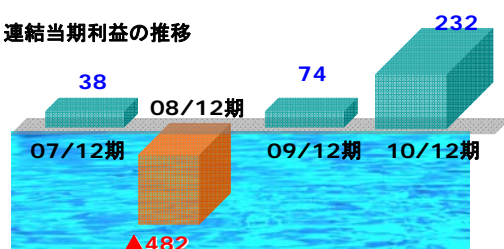
2010年12月期の決算の概要についてご説明いたします。

10/12月期決算の概要

PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI

(百万円)		09/12月期	10/12月期	増減率(%)	売上比(%)
売上高	連結	5,436	5,804	6.8	100
	単体	3,735	3,501	▲6.3	100
営業利益	連結	181	332	83.6	5.7
	単体	168	166	▲1.2	4.8
経常利益	連結	76	139	83.6	2.4
	単体	99	▲40	-	▲1.2
当期利益	連結	74	232	213.1	4.0
	単体	31	2	▲93.5	0.1

連結当期利益の推移



- ・国内需要の回復は弱々しいながらも、海外の成形品需要は旺盛となり増収へ
- ・固定費の圧縮をはじめとした徹底的なコストダウンにより、黒字体質への転換に成功

5

10年12月期の連結売上高は、日本での金型関連設備の需要回復は弱々しいものの、精密成形品セグメントにおいて光学機器をはじめとした精密成形品の需要増が寄与したことなどにより、58億4百万円(前連結会計年度比6.8%増)となりました。

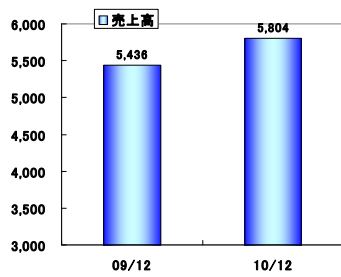
連結営業利益は、徹底的な経費の削減および内製化による外注加工費の圧縮などによる粗利率の改善などがあり、営業利益3億32百万円(前連結会計年度比83.6%増)となりました。

連結経常利益は、為替差損78百万円を営業外費用に計上したものの、経常利益1億39百万円(前連結会計年度比83.6%増)となりました。

連結純利益は、匿名組合投資利益69百万円を特別利益に計上したことなどにより、当期純利益2億32百万円(前連結会計年度比213.1%増)となりました。

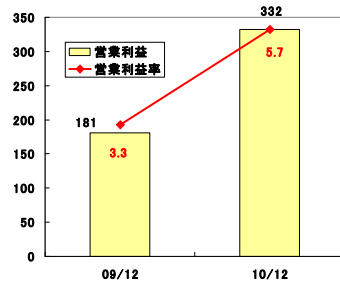
10/12月期連結決算総括

PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI



【売上高】

- ◆ 国内金型は、需要の減少傾向が続く
- ◆ タイでは自動車部品関連の成形品受注は急回復
- ◆ 上海ではデジカメ関連の成形品受注が堅調に回復
- ◆ 蘇州では文具関連用成形品を新規に受注



【営業利益】

- ◆ 精密金型事業及び精密成形品事業ともに、固定費の圧縮や内製化による徹底した原価低減により、大幅増加

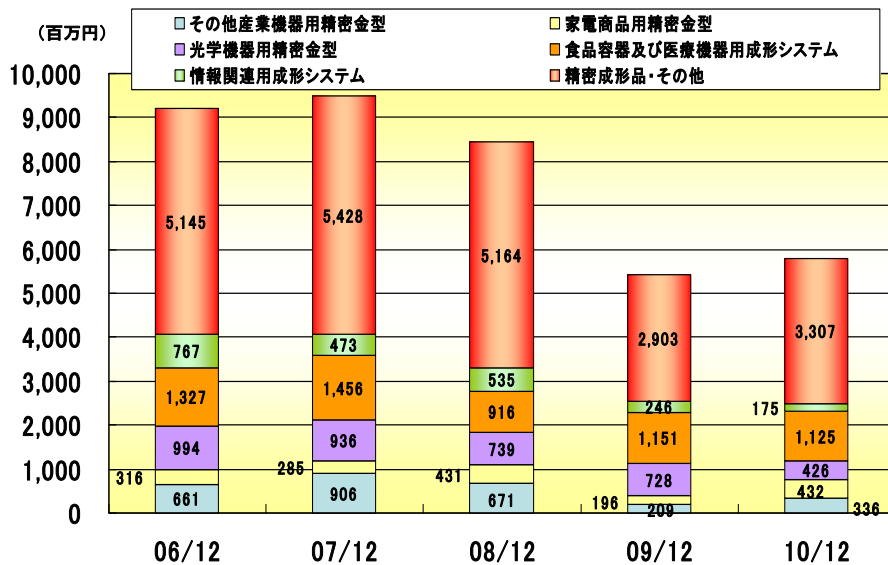
【経常利益】

- ◆ 為替差損の影響を受けつつも営業利益の増加により、黒字確保

6

売上高は、海外での需要が増え前期比6.8%増となり、さらなる徹底的な経費節減などにより、営業利益は、前期比83.6%の大幅増加となりました。

セグメント別売上高の推移(連結) PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI



7

情報関連用成形システム品目では、CDケース用成形システムが減少したことなどにより、当品目の売上高は1億75百万円(前連結会計年度比28.7%減)になりました。

食品容器及び医療機器用成形システム品目では、食品容器用成形システムが減少したことなどにより、当品目の売上高は11億25百万円(前連結会計年度比2.2%減)となりました。

光学機器用精密金型品目では、導光板関連精密金型が減少したことなどにより、当品目の売上高は4億26百万円(前連結会計年度比41.4%減)となりました。

家電商品用精密金型品目では、プリンター部品用精密金型が増加したことなどにより、当品目の売上高は4億32百万円(前連結会計年度比119.8%増)となりました。

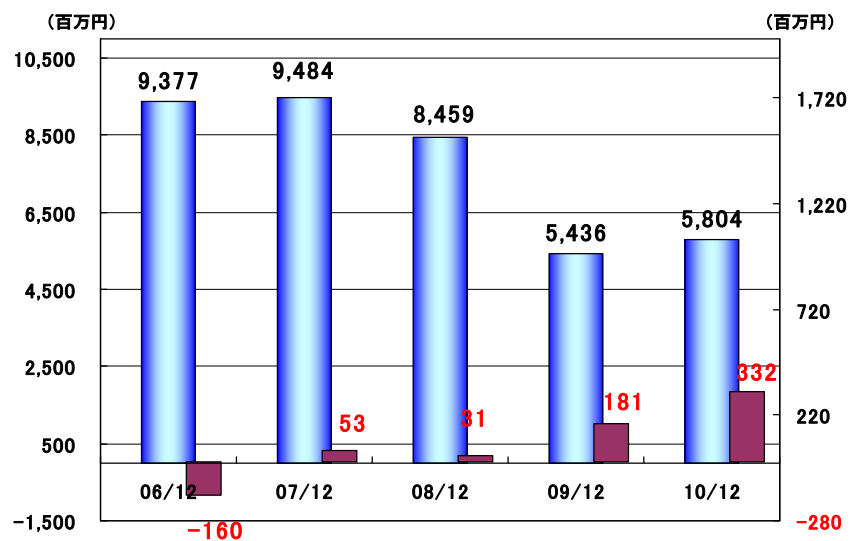
その他産業機器用精密金型品目では、産業機器部品用精密金型が増加したことなどにより、当品目の売上高は3億36百万円(前連結会計年度比60.8%増)となりました。

このような結果、当セグメントの売上高は、24億96百万円(前連結会計年度比1.4%減)となりました。

<精密成形品その他事業>

精密成形品その他セグメントは、光学機器関連用成形品が増加したことなどにより、当セグメントの売上高は、33億7百万円(前連結会計年度比13.9%増)となりました。

売上高と営業利益の推移(連結) PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI



8

国内顧客の需要回復は弱々しさが残るものの、アジアを中心とした需要回復により、連結売上高は前期比3億68百万円増加(前期比6.8%増)しました。

徹底的な経費の削減などによる粗利率の改善などがあり、営業利益は3億32百万円(前連結会計年度比83.6%増)となりました。

B/Sの主な増減科目(連結)

PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI

(百万円)	09/12月期		10/12月期		増減額	コメント
		構成比		構成比		
流動資産	3,050	52.0	3,121	55.8	71	
現金・預金	788	13.4	871	15.6	82	
受手・売掛金	1,320	22.5	1,278	22.9	△41	
棚卸資産	445	7.6	590	10.6	145	
固定資産	2,820	48.0	2,470	44.2	△349	減価償却実施
資産合計	5,870	100.0	5,591	100.0	△278	
流動負債	4,431	75.5	4,303	77.0	△126	短期借入減
支払手形・買掛金	654	11.1	569	10.2	△84	
固定負債	1,130	19.2	818	14.6	△311	長期借入減
負債合計	5,560	94.7	5,122	91.6	△438	
純資産合計	310	5.3	469	8.4	159	
負債・純資産合計	5,870	100.0	5,591	100.0	△278	

9

固定資産は、有形固定資産の減価償却などにより、対前期比3億49百万円減少しました。

流動負債は、短期借入金が増加したことなどにより、対前期比1億26百万円増加しました。

固定負債は、長期借入金が増加したことなどにより、対前期比3億11百万円増加しました。

キャッシュフローの状況(連結)

PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI

(百万円)	09/12月期	10/12月期	増減額
営業活動によるキャッシュフロー	347	472	125
投資活動によるキャッシュフロー	296	▲36	▲332
財務活動によるキャッシュフロー	▲318	▲317	1
現金及び現金同等物の期末残高	783	866	83

キャッシュフローの増減要因

営業活動

主として当期純利益の増加によるものです。

投資活動

主として有形固定資産の取得による支出によるものです。

財務活動

主として短期借入金及び長期借入金の返済支出によるものです。

10

安定した営業キャッシュフローを確保し、有利子負債の削減を進めております。

基本事業戦略

PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI

11

基本事業戦略についてご説明いたします。

◆基本戦略

将来にわたる収益確保のため
「金型専業」から「成形事業」へ
収益の柱のシフトを目指します

当社グループは、将来的に市場規模の縮小が想定される「金型事業」から、当社の金型技術がなくてはできない付加価値の高い成形品を選択した「成形事業」へ収益の柱のシフトを目指しております。

◆なぜ成形事業か

成形品は儲からない？

成形事業は、独自ノウハウの活用で
高収益事業化が可能です

“高生産性・収益性”の金型設計・製造
ノウハウを持つ不二精機グループだから
実現できる！

当社のコア技術である「高生産性・高収益性」の金型技術と、中国、タイの各成形工場の品質及び生産管理技術を融合させることにより、15～18ページに事例を紹介しながら、検証してまいります。

◆高収益性金型のポイント

- | | | |
|----------|-----|----------|
| ①ハイサイクル化 | ・・・ | 1成形の時間 |
| ②多数個取化 | ・・・ | 1成形当りの個数 |
| ③材料低減化 | ・・・ | ランナー重量減 |
| ④歩留り向上 | ・・・ | 良品率向上 |



14

①「ハイサイクル」とは、成形機に搭載された金型に熔融樹脂を注入～冷却工程にて金型内の樹脂を固化(金型形状の転写)～金型を開いて成形品取出し～型閉め工程を「1サイクル」とし、この一連の工程(サイクル)を高速化させることをハイサイクル化といえます。

このハイサイクル化を実現するためには、金型の高精度化に加え、金型冷却のノウハウや成形技術ノウハウが必要となります。

②「多数個取」とは、成形機の大きさに応じて決まる金型の大きさの制約の中で可能な限り多数の製品を配置する金型技術です。

また、多数個取金型は、製品寸法のバラツキを発生させないため、高精度加工、冷却回路等、非常に難易度の高いものづくりが要求されます。

③「材料低減」ー 成形機で熔融させた樹脂を金型内に射出後、金型内に掘り込まれた湯道を通り、金型内の製品掘り込み部分に転写させますが、この湯道が「ランナー」と呼ばれています。(例:プラモデルの枝の部分です)

「ランナー」は製品を成形するために必要ではあるものの、製品には必要がなく、いわば成形工程における「材料ロス」です。

弊社ではこのランナー重量(太さ・大きさ等)を、可能な限り少なくし安定した品質が実現できる金型づくりを行っております。

④良品率を向上するためには、金型の精度はもちろん、成形技術ノウハウが必要となります。

弊社では、長年蓄積した金型完成後の試作データを元に、さまざまな特性を持つ樹脂成形にもそのノウハウを活かしております。

◆なぜ利益が出せる？

例：デジカメ部品

①ハイサイクル化

- ・(改善前) 1サイクル 28秒
- ・(改善後) 1サイクル 18秒



☆35% 成形チャージ削減

15

弊社グループである、主に上海不二精機でのデジカメ部品の事例です。

弊社グループのハイサイクル仕様の金型を採用することにより、成形チャージを35%低減できたことによって、利益率の改善が可能となりました。

◆なぜ利益が出せる？

例：プリンター部品

②多数個取り化

- ・(改善前) 1サイクル 16個取り(6型)
- ・(改善後) 1サイクル 64個取り(2型)



☆成形設備 1/3へ

16

弊社グループである、主にタイフジセイキでのプリンター部品の事例です。

当該部品を成形するための金型を従来は、1回の成形で16個の製品が成形できる金型(16ヶ取り金型)を6型使い、6台の成形機にて成形しておりました。

改善後は、弊社グループにて64ヶ取り金型を2型作ることで、品質を確保しながら、必要生産量が確保できることとなり、結果、成形設備は2ラインですむこととなりました。

◆なぜ利益が出せる？

例：液晶ホルダー

③材料低減化(ランナー重量減)

・(改善前) $8.68\text{g} \times 4,000\text{k} = 34,720\text{kg}$ ・(改善後) $6.05\text{g} \times 4,000\text{k} = 24,200\text{kg}$ 

☆ 6百万円 コストダウン (10,000kg × 600円)

17

弊社グループである、主に上海不二精機での液晶パネルのホルダー部品の事例です。

ランナー形状等の改善により、ランナー重量を減らすことで、樹脂材料費の削減が可能となりました。

◆なぜ利益が出せる？

例：高輝度導光板

④歩留り向上(良品率を高める)

・(改善前) 70%

・(改善後) 95%



☆35% コストダウン

18

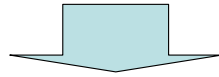
弊社グループである、主に蘇州不二精機での高輝度導光板の事例です。

導光板は、従来より要求品質が高く、歩留まりが悪い製品でした。

弊社グループの高精度金型の利用及び同工場の品質管理技術により、歩留まり率を向上させ、35%のコストダウンを実現しております。

◆連結利益目標達成への課題

- ①国内金型市場の縮小への対応
(顧客の海外生産シフト)
- ②成形品事業の受注リスク分散
(安定稼働を目指した製品の多様化)



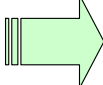
年間平均稼働率を高める

連結利益目標の達成に向けての課題は、製造業の海外生産シフトが進む日本の金型市場への対応および安定した稼働が利益に直結する成形品事業での受注リスクの分散であると考えております。

◆課題への対処

- ①関東工場(金型事業)の開設
(顧客ニーズへの対応により新規受注獲得)
- ②営業活動の重点シフト
(安定稼働を目指した製品の集中と分散)



稼働率安定  利益目標達成！

課題への対処としては、日本の金型市場において関東工場を新たなサービス拠点として、東日本地域のお客様のニーズにきめ細かくお応えすることにより新規受注の獲得に注力いたします。

また、稼働率安定に向け、受注の波が比較的少ない自動車部品・医療用品・食品容器分野への集中と並行して、文具・事務用品などの新規分野の開拓に努めて参ります。

子会社を含めた生産インフラ・生産管理体制は整備されておりますので、年間の稼働率が安定することにより目標とする連結利益目標の達成が可能となります。

2011/12月期事業計画

PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI

連結利益は、安定的な拡大へ！

21

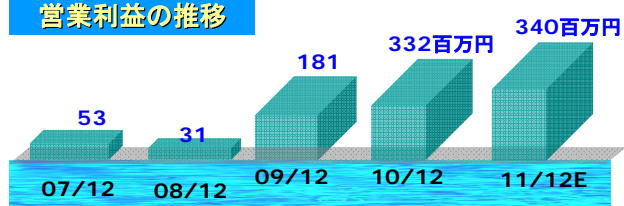
今期の事業計画をご説明いたします。

11/12月期通期計画(連結)

PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI

(百万円)	10/12月期	11/12月期計画	増減率%	売上比%
売上高	5,804	6,060	4.4	100.0
売上総利益	1,259	1,278	1.5	21.1
販管費	926	938	1.3	15.5
営業利益	332	340	2.4	5.6
経常利益	139	240	72.7	4.0
純利益	232	240	3.4	4.0
設備投資	126	258	104.8	4.3
減価償却費	350	342	▲2.3	5.6

営業利益の推移



<営業増益のポイント>

- ・海外受注の拡大
- ・内製化によるコストダウン

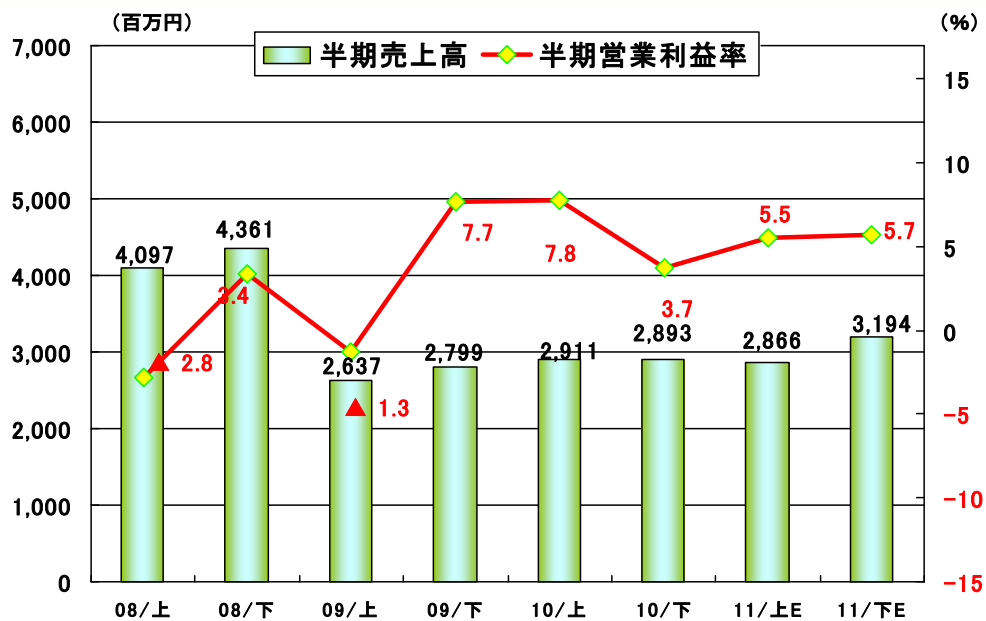
22

2011/12期の売上高は、国内販路の拡大および製造業の海外生産移管の追い風を確実につかみ、計画の達成を目指します。

営業利益は、海外子会社などにおいて稼働率が安定化する受注の確保のほか、内製化によるコストダウンを進めることなどにより、計画の達成を目指します。

半期毎の業績推移(連結)

PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI



23

弊社従来の業績は、下期に偏在する傾向がありましたが、精密成形品の売上高比率の増加に伴い、通期平準化されつつあります。

通期連結売上高及び営業利益は、着実な回復、さらには高利益率を目指します。

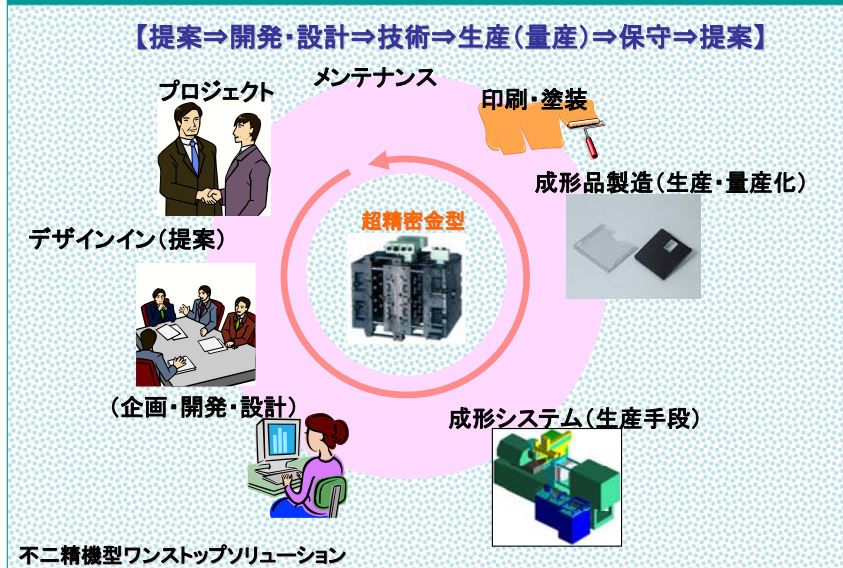
中期事業戦略

PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI

24

中期事業戦略についてご説明いたします。

“プラスチック精密成形総合システム会社”として、
不二精機型ワンストップソリューションを 今後もさらに展開する

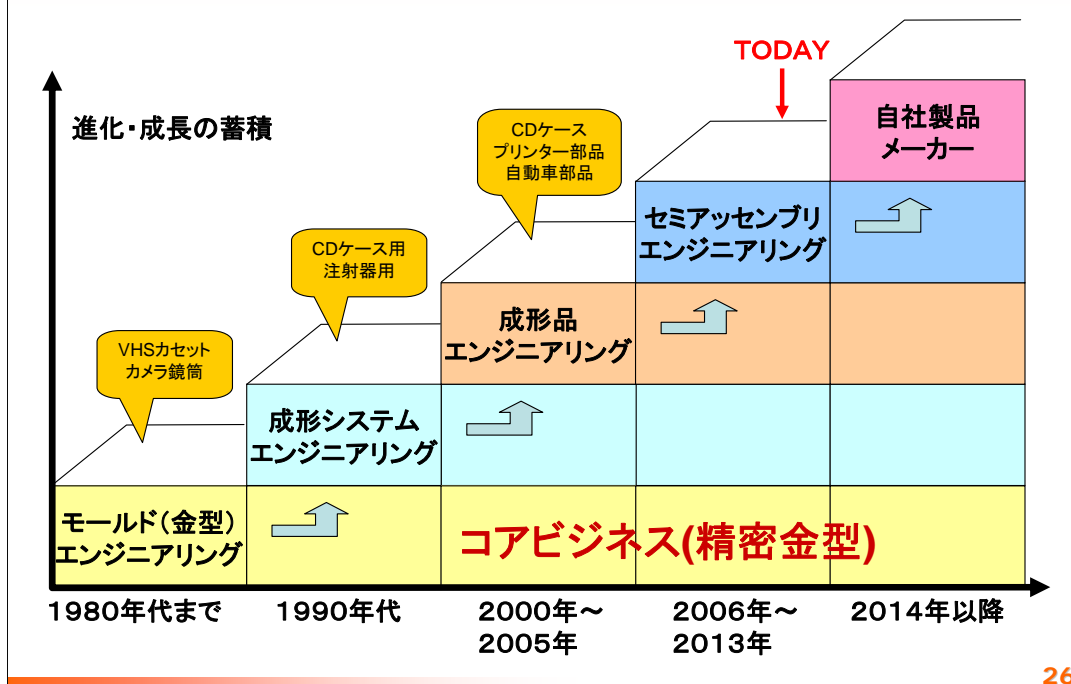


当社グループの総力で、金型の製作だけでなく、製品の企画段階より製品での納品まで(ワンストップソリューション)、精密金型技術をコア技術として、顧客のニーズに最適なものづくりを提案いたします。

もちろん、上図それぞれのステップ(金型製作のみ、成形品製造のみ等)単位でのご相談もお受けします。

不二精機の歩みと今後

PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI



1955年の創業以来、「精密小物向け金型では、他社に負けない」を合言葉に、着々と顧客のご支援を頂きながら成長してまいりました。

1984年頃には、金型から生み出される成形品そのものの精密さが必要とされる商品向けの精密金型に加え、成形品1個当たりのコストが重視される大量生産品向けの金型にも弊社の精密金型を必要とされることから、大量生産品向けマーケットへ進出しました。

1990年代より、単に金型単体での販売だけでなく、顧客が求める成形品を生産するために必要な生産設備(成形機、取出し機、自動組立機等)も併せての販売を開始しております。

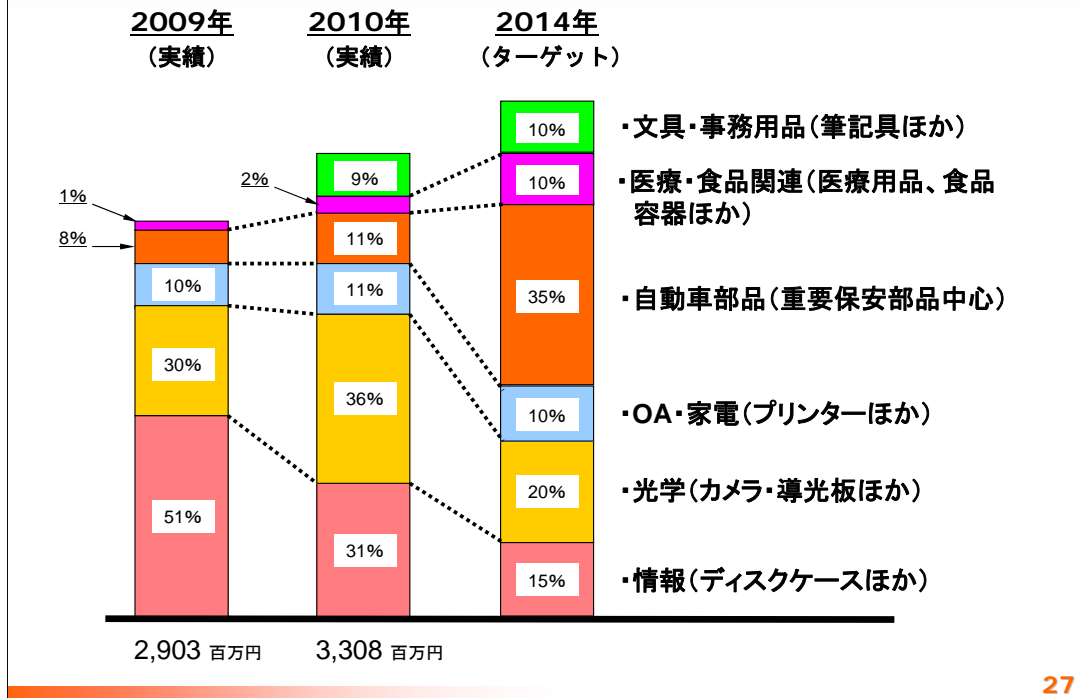
2000年からは精密金型をコアとし、タイ、中国にある弊社海外グループ会社等において成形品製造・販売を主体としたビジネスを展開しております。

2006年以降は、成形品の販売のみならず、成形品への印刷・塗装及びセミアッセンブリにも事業を拡大しております。

2014年以降には、弊社の強みである精密金型技術を活かした自社製品メーカーを目指し、日々研鑽しております。

成形品売上<分野別ターゲット>

PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI



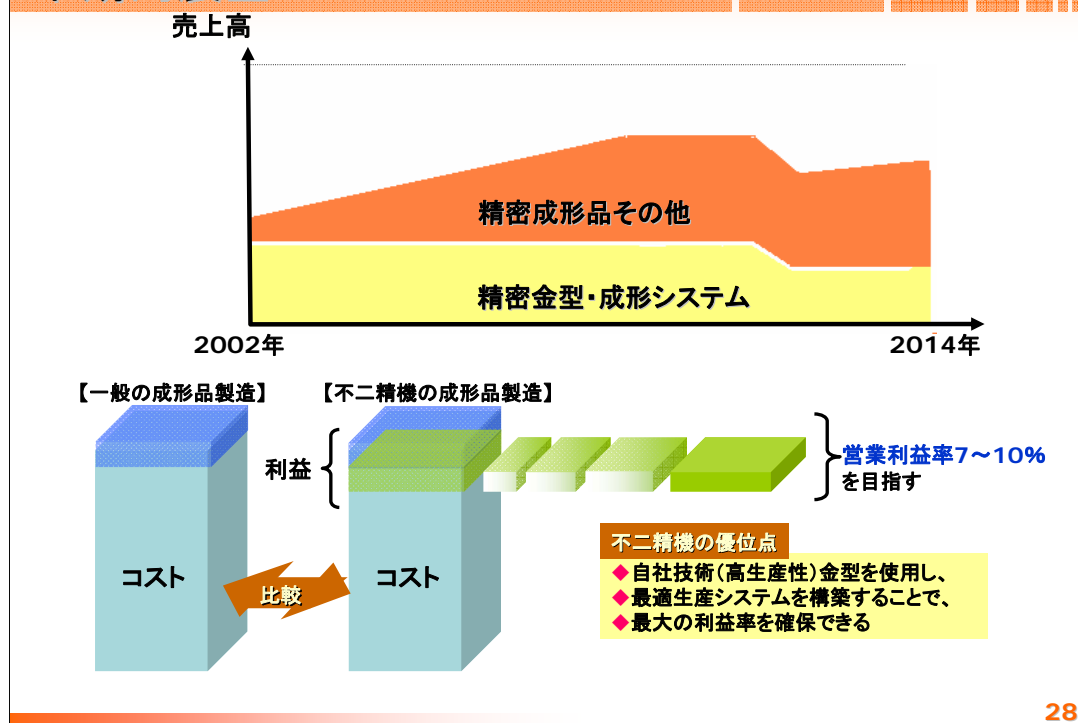
成形品売上の中心であった、材料比率が高く付加価値率の低いディスクケース製品の縮小を進めますので情報関連の売上高は減少を見込んでおります。

一方、受注の波が比較的少ない自動車部品、医療用品、食品容器の分野の拡大を図り、利益率向上の課題である年間平均稼働率を高めることにより、利益率の改善および利益額の確保を目指します。

当分野の拡大には、当社グループの強みである高生産性金型技術および品質管理の整備された成形品量産体制を戦略的に活用いたします。

中期的展望

PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI



28

2008年から2009年にかけて精密金型事業、精密成形品事業ともに世界同時不況による市場縮小の影響を受け減収となりました。

前述のとおり精密成形品事業では、ディスクケース製品の縮小を進め安定稼働と利益率の向上を目指し、自動車部品、医療用品、食品容器などの分野の拡大を推進いたします。

精密金型事業においては、強みのある医療機器、食品容器、光学部品ほかの金型販売および精密成形品事業の受注拡大につながる金型製造に注力いたします。併せて、さらなるコスト構造の改革により製造原価の低減を進め、当事業の利益率の改善を目指します。

以上の活動により、営業利益率7%~10%を中期目標としております。

この資料には、当社の現在の計画や業績見通しなどが含まれております。それら将来の計画や予想数値などは、現在入手可能な情報をもとに、当社が計画・予測したものであります。実際の業績などは、今後の様々な条件・要素によりこの計画などとは異なる場合があります、この資料はその実現を確約したり、保証するものではありません。

PRODUCT MOTHER FUJI SEIKI



お問合せ先

管理本部
TEL:06-4306-6822